

# 古川(ジックラ)5打差7位

## 木村(グランディ)9位に浮上

### ゴルフ

#### 四国アマチュア選手権

ゴルフの第40回四国アマチュア選手権第2日は26日、グランディ鳴門ゴルフクラブ(東コース)で013打、パー72)で行われ、徳島県勢は初日4位だった生光学園高3年の古川悠一朗(ジックラ)がイーブンパーの72とスコアを伸ばせず、通算2アンダーの142で首位と5打差の7位に下がった。15位から出た木村剛志(グランディ)

は71で回り、通算144で9位に浮上した。2日間の予選ラウンドを終え、25オーバーまでの100人が最終日の決勝ラウンドに進出。県勢は18位の生光学園高3年の勢井乃樹(月の宮)ら17人が進んだ。◇14位以下の徳島県勢  
 ▼第2日18勢井乃樹(月の宮)148(72、76)②篠原和樹(レオ)150(72、78)③吉井寛介(阿南)150(77、73)④濱瀬圭(鳴門)152(76、76)⑤尾崎竜二(阿南)154(74、80)⑥福島慎也(ジックラ)155(74、81)⑦明石光由(タカガワ)159(79、80)⑧小野寺秀樹(眉山)160(76、84)⑨武田紘汰(月の宮)163(89、74)⑩山本真之(タカガワ)164(82、82)⑪清水匠(四国)166(83、83)⑫水主達也(月の宮)166(80、86)⑬新居二郎(グランディ)168(86、82)⑭岡本浩希(御所)168(85、83)⑮安喜正満(吉野川)168(75、93)⑯田村泰章(阿南)170(87、83)⑰山田

#### 第2日の成績(9位まで)

①松井琳空海(新居浜)	7	137	(68、69=33、36)
②谷本伊知郎(高松グ)	6	138	(68、70=34、36)
③福住 修(スカイ)	4	140	(70、70=34、36)
④竹内 瑛信(北条)	3	141	(71、70=36、34)
④香川 凜央(西条)	141	(72、69=32、37)	
④田村 軍馬(久万)	141	(71、70=35、35)	
⑦古川悠一朗(ジクラ)	2	142	(70、72=37、35)
⑦福住 将(スカイ)	142	(68、74=36、38)	
⑨鳥井 隆貴(松山国)	144	(72、72=38、34)	
⑨木村 剛志(グラン)	144	(73、71=37、34)	
⑨二宮 慎堂(今治)	144	(75、69=34、35)	
⑨井上 裕一(パシフ)	144	(73、71=36、35)	
⑨田所 智楓(スカイ)	144	(71、73=37、36)	

高松グは高松グランド、スカイはスカイベイ、ジクラはジックラシック、松山国は松山国際、グランはグランディ、パシフはパシフィック



2日目を1アンダーで回り、9位に浮上した木村=グランディ鳴門GC

## ホームコースで存在感 木村

ジュニア選手が上位を席巻する中、45歳の木村がホームコースで存在感を示した。安定したショット、パットでスコアを一つ伸ばし、2日目を終えてトップ10入りした。納得のラウンドだった。前半インの12番をボギーとしたが、14番で3

15番で6打のバーディー、17番ショートはもう少しでホールインという第1打から簡単な三つ目のバーディーを奪取。アウトも5番のボギーを除いてパーセーブした。「フェアウェイキープ

挽回を誓う古川  
 ○…首位と2打差でスタートした古川は写真は、ショットの乱れから最終盤にダブルボギーをたたき、追い上げはならなかった。インスタートの10番で幸先良くバーディー発進したものの、4バーディー

終9番のロングで第1打がOBに。「フェードでフェアウェイを狙ったら左に引っ掛けてしまった」と悔んだ。初日からショットが安定せず苦しみながらも、アプローチとパットでスコアメーターに努め、7位に踏みとどまった。最終日に向け「(上位5人に与えられる)日本アマ選手権の出場権は取りに行く」と挽回を誓った。

率、バーオン率ともに良かった」と振り返るように、バーオンできなかったのは5番、8番、12番の3ホール。「グリーン」の形状は熟知している。ピンに対してどの位置にボールを落としたいのか分かっている」と、地の利も生かしてスコアをまとめた。  
 2017年から出場している四国アマは今年で4回目。前回の19年は31位で、30位以内に入られる次年度のシード権を惜しくも逃した。思い切りのいいジュニア選手のプレーから刺激を受けているといい「まずはシード権獲得。10位以内を狙いたい」と意欲を見せた。(須見千次郎)